社会医療法人
同仁会
Dojinkai
Social Medical Corporation

私たちの理念「一視同仁」

同仁会報みみはら

2017年２月１日発行
第52号

民医連

発行　社会医療法人同仁会　同仁会報編集委員会　〒590-0824　堺市堺区老松町２丁58-１
TEL 072(244)7260　FAX 072(247)0165　URL http://www.mimihara.or.jp（同仁会HP）

全職員・友の会の力で
「医師確保」への働きかけを強めよう

医学生と友の会のみなさんとの手作りランチ交流会

昨年12月、耳原総合病院に今春研修開始予定の医学生９人が集まり、先輩研修医や研修に携わるスタッフとの交流会が開かれました（17年卒世代会）。２月の国家試験に合格すれば、晴れて耳原総合病院と西淀病院で、医師人生のスタートを切ることになります。

新たな専門医制度の開始

２００４年にスタートした臨床研修制度以降、これまでに84人の医師が、耳原総合病院で研修を開始してきました。しかし２０１８年４月からは、新専門医制度が開始されるという、一大局面に突き当たっています。

新専門医制度の下では、研修医は２年間の臨床研修を終えたのちに、専門医の資格取得のため、内科など一部の診療科を除いて、民医連以外の施設で研修することになります（研修先となる要件は、大学病院やそれに相当する大規模な施設でないと、難しいと考えられるため）。そのため、専門研修のためにいったん耳原総合病院を離れたとしても、再び戻ってくる決意を持った医師の養成が必要となっているのです。（新制度は、地域の医師不足を招くなどの批判が相次ぎ、当初予定の２０１７年制度開始が１年延期されました）。

もちろん、魅力ある病院として施設などの充実を行うことも対策のひとつですが、大事なことは早くから病院に関わる他職種・会員さんと触れ合い、地域医療を肌で感じることなのです。

高校生医師体験で解説する木野副病院長

耳原総合病院の職員レストランでの世代会

地域交流会や模擬面接

耳原総合病院では、医学生や医学部をめざす高校生に、民医連の病院を知ってもらう活動に長年取り組んでいます。

高校生向け取り組み

高校生向けには、一日医師体験の受け入れや、医学生から直接試験のアドバイスを聞くことができる面接試験練習会を開いています。

くことの大切さを学ぶ機会になっています。そのほか、訪問診療同行体験や友の会の活動に参加し、民医連医療を体感してもらうことを行っています。その中から、将来の大阪民医連を担う奨学生が、誕生しています。

◇　◇

ある医師から、「医師人生のスタートを切った病院での患者さんとの関わりには、特別な思い入れがある」と聞いたことがあります。「地域とともに歩む専門職の育成」が、同仁会の理念のひとつであるように、地域の方々と共に、地域医療を守る医師の養成に、取り組んでいきます。

医学生向け取り組み

近畿大学医学部近くの「学生室」で、友の会の皆さんと協力して開催、週に１回の手作りランチ交流会はそのひとつです。医学生が地域の方と交流し、生の声を聞く

ご協力お願いします

①職員や、友の会のあらゆるつながりを活かして医学生や医師をめざす高校生・受験生をご紹介ください。
②医学生の成長のために、事業所での医療活動や、地域のボランティアなど民医連活動を伝える取り組みにご協力ください。
③大学入試宣伝や高校訪問など活動への積極的な参加をお願いいたします。
④既卒医師やつながりある非常勤医師へ、同仁会への入職を積極的に呼びかけてください。

お近くの職員にお気軽にご相談ください。

こんにちは！同仁会グループ事業所だより㉙

耳原総合病院　手術室

手術室数　５室／手術件数　総数989件（2015年度）

外科・産婦人科・整形外科・泌尿器科・心臓血管外科・内視鏡・気管支鏡・口腔外科

願いこめた手作り壁面アート

手術室では、新病院建設に伴い、多様化する手術にも対応可能な最新設備となりました。設備面だけでなく、患者さんやご家族に安心して手術を受けていただけるよう、技術向上や安全への取り組み、感染制御にも力を注いでいます。

手術を受ける患者さんは、大きな不安を抱えて手術室に来られます。患者さんを手術室にお迎えし、前室の椅子に座っていただきますが、その姿からは、ご家族と離れ手術を目前に不安でいっぱいの様子がうかがえます。

「少しでも不安な気持ちを和らげれば」と手術室廊下壁面８メートルに「湖面に映る大きな木」を描きました。病気に立ち向かう気持ちを反映するため、壁面の色付けは手術室スタッフで行いました。患者会（みみはら乳癌患者会）が四季を表した葉っぱや栗、蝶々や雪の結晶のプラスチック板を作成、壁面アートに飾りました。このプラ板には、手術を受けられた患者さんからのメッセージも書かれています。

手術を受けられる患者さんが、願いのこもったアートの前を通ることで、「ひとりではなくみんなの支えがあるのだ」という気持ちを胸に手術に挑んでいただけるよう願い、今後もさらにより良い医療をめざして頑張っていきたいと思います。